

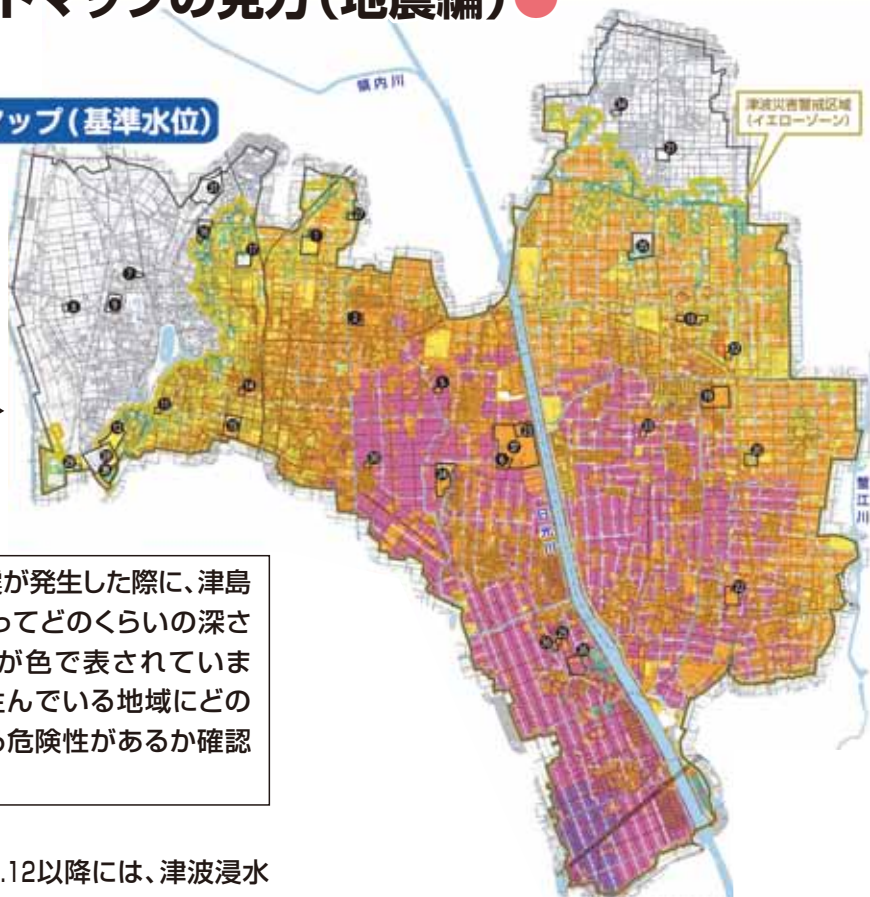
# ハザードマップを更新しました！

問合せ 危機管理課 危機防災G ☎ 55-955094

市では、3月に更新したハザードマップを、5月に全戸配布しました。  
ハザードマップを活用し、災害時に備えましょう。

## ●ハザードマップの見方(地震編)●

津波浸水マップ(基準水位)



南海トラフ地震が発生した際に、津島市が津波によってどのくらいの深さで浸水するかが色で表されています。ご自身が住んでいる地域にどのくらい浸水する危険性があるか確認しましょう。

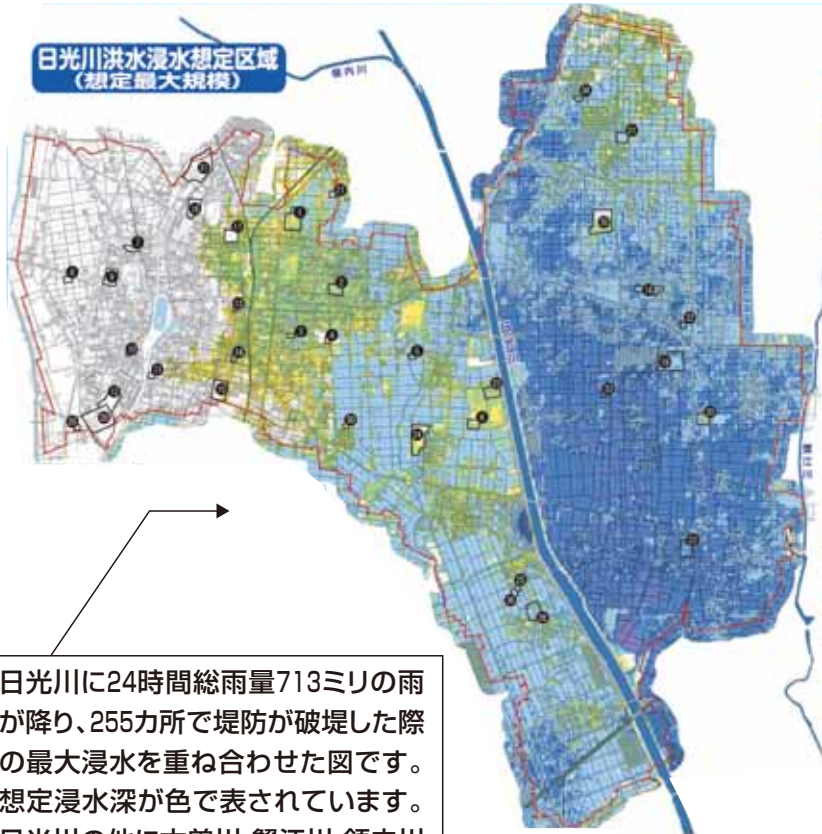
ハザードマップP.12以降には、津波浸水マップや風水害避難マップが載っており、校区ごとに避難所の位置・浸水想定箇所・災害発生時に危険な箇所が記載されています。常日頃から見ておき、避難する際には浸水箇所や危険な箇所を避けるようにしましょう。

水防法の改正に伴い、日光川・木曾川等の浸水想定を年超過確率1/100から1/1000(※)に変更し、津波浸水想定では、津波が建物等への衝突による水位上昇を含んだ「基準水位」に変更しています。

※年超過確率1/1000とは、1年間にその規模を超える降雨が1回以上発生する確率が1/1000(0.1%)であるという意味です。ハザードマップには、1000年に1回程度の降雨による河川氾濫を想定したものと記載されていますが、1度氾濫が発生した際に次の氾濫が1000年間は発生しないという意味ではありません。

## ●ハザードマップの見方(風水害編)●

日光川洪水浸水想定区域(想定最大規模)



日光川に24時間総雨量713ミリの雨が降り、255カ所で堤防が破堤した際の最大浸水を重ね合わせた図です。想定浸水深が色で表されています。日光川の他に木曾川・蟹江川・領内川の浸水想定も載っています。

# マイタイムラインの書き方

5月に全戸配布したハザードマップには、A3用紙のマイタイムラインが同封されています。マイタイムラインとは、住民一人ひとりのタイムライン（防災行動計画）であり、台風等による大雨によって河川の水位が上昇する時に、自分自身がとる標準的な防災行動を時系列で整理し、自ら考え命を守る避難行動のための一助とするものです。

災害の発生を前提に、自分自身が「いつ」「何をするか」に着目して、防災行動を時系列的に整理したマイタイムラインを、津島市役所を例にとりて作っていきましょう。



## ① 自宅周辺の災害リスクを把握しよう！

まずは、日光川の浸水想定区域が表示されているハザードマップのP.10～11を見てみよう。津島市役所周辺は緑色だから、浸水深は0.5m～1mと分かるね。

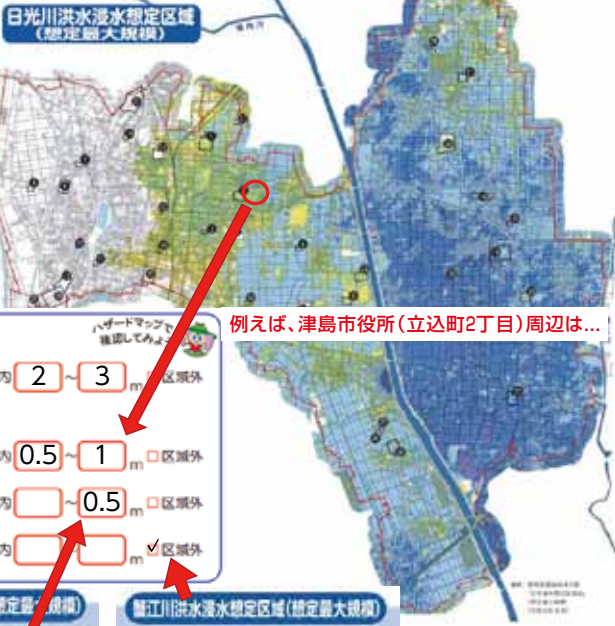
日光川浸水想定区域にチェックを入れて、「0.5mから1m」と記入しよう。

領内川も浸水想定区域と分かるから記入しよう。

## ② 避難所と避難路を確認しよう！

次は、避難する場所を確認しよう。避難場所は、校区ごとに分かれたマップで確認ができるよ。

ハザードマップのP.14～15を見てみよう。地図上の赤線で囲まれたところが避難所だよ。津島市役所がある立込町2丁目周辺には東小学校があるからそこに避難できるね。マイタイムラインに「東小学校に徒歩で5分」と書き込もう。



木曾川、領内川、蟹江川についても調べてみよう！

## ③ 避難するタイミングを確認しよう！

次に、避難するタイミングを確認しよう。避難情報は、大きく5段階に分けられていて、その中でも避難に該当する情報は、警戒レベル3の「高齢者等避難」と警戒レベル4の「避難指示」の2つだよ。

「高齢の方等は、警戒レベル3の「高齢者等避難」で避難し、警戒レベル4の「避難指示」で全員が避難するようにしようね。



## ④ 避難する時に持っていくものを確認しよう！

最後に、避難する時に持っていく物を確認しよう。

水食糧は最低でも3日分は備蓄しよう。また、飲料水や非常食は期限の確認をして、古い物から消費して買い足していくローリングストックがおすすめです。現在の「コロナ禍」での避難所生活のために、マスク、消毒液、体温計も持つていきましょう。

